

## 事例 2 Bさん

はじめての矯正施設からの受け入れ。



本人のニーズ  
静かな場所で  
落ち着いて  
暮らしたい

年齢(受け入れ時) 50代

CAPAS(IQ相当値) 41

療育手帳 なし

罪名 器物破損(放火による)

刑期 懲役1年6か月

入所度数 4入

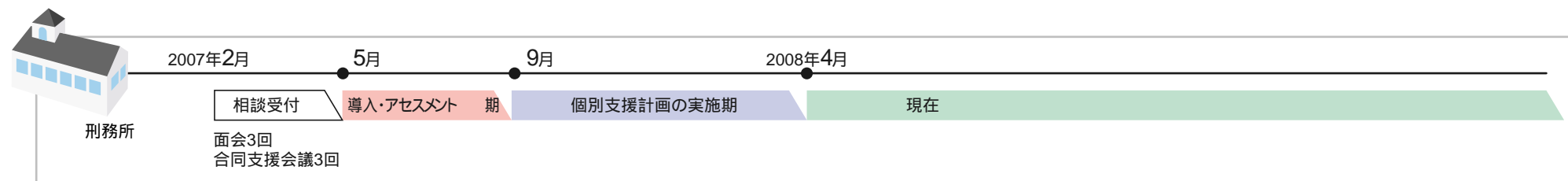
出所形態 身元引受人がいなかったため満期出所

### 生活環境づくり

火気類の撤去。  
アルコールによる放火のためアルコール類は原則禁止とし、料理酒も撤去した。  
貴重品の管理の徹底。  
日中活動への移動時は職員付添い。

### 受け入れ

出身地の市町村への橋渡しを予定していたが、福祉的手続きが間に合わず、当法人で受け入れることに。



導入・アセスメント期	個別支援計画の実施期	現在
<p>刺激を避ける意味で、日中活動は施設の周辺に限定。休日の外出も制限した。 当初の近辺の人家を物色するような目つきが、次第におさまり、安定した生活・活動ぶりであった。 サービス調整会議から満期出所までの期間が短く、必要な福祉サービスを整えるのに時間を割いた。</p>	<p>生活の場を障がい重い方のケアホームへ移す。重度の方のお世話が大好きという長所を見出し、ピアカウンセリングを中心としたケアプランを立てる。 休日にも職員が同伴し、5～6人のグループでの買い物や外食への外出が可能になった。</p>	<p>まち郊外からまち中へ生活圏域をひろげていくプランに沿って、まち中のケアホームで実習を行う。 日中活動では施設周辺での活動にも参加できるようになる。</p>
<p><b>生活介護</b> (長崎県雲仙市) 定員20名 職員6名</p>	<p>生活介護 (長崎県雲仙市) 定員20名 職員6名</p>	
<p><b>職員配置</b> Bさん : 担当職員 (男性、勤続6年)</p>	<p>通常の職員配置</p>	
<p><b>活動内容</b> リサイクル活動 和太鼓活動</p>	<p>しいたけの栽培 乗馬、和太鼓活動</p>	<p>弁当配達 パン販売 地域サークル活動への参加</p>
<p><b>生活の場</b> まち郊外の丘陵 定員5名(女性のみ) 職員1名(ケア職員付き)</p> <p><b>ケアホーム</b> (長崎県雲仙市)</p>	<p>定員7名(男女混合・重度) 職員2名(ケア職員付き)</p> <p><b>ケアホーム</b> (雲仙市)</p>	<p>定員5名(男女混合) 職員1名(ケア職員付き)</p> <p><b>ケアホーム</b> (雲仙市)</p>
<p><b>職員配置</b> Bさん : 担当職員 (女性、勤続7年)</p>	<p>Bさん : 年齢性別共に様々な職員が加わる</p>	<p>通常の職員配置</p>
<p><b>休日・外出</b> 外出を制限。日課を守れるようになったら外出をすることを約束をする。</p>	<p>平日にマンツーマンで外出支援。地域行事へも参加。</p>	

### 本人の夢



「楽しく暮らす」を目標に挙げ、多くの楽しみの取り入れを行っている。  
趣味を広げてエアロビクススタジオで毎週レッスン。その他、外出、コンサート鑑賞等。



本人と将来について話をする中で、「同じ日中活動先の仲間好きな人ができた。その人と話をするのが楽しい。将来一緒に暮らすことができたと思う」という話が聞かれた。現在のまち郊外の丘陵のケアホームでの生活を希望される。

出所までに療育手帳を申請できない。保護観察所の協力のもと、18歳までに本人の障がいがあったことを推認することが出来る情報を収集した。現地調査で会った本人の幼少期を知る親族の証言で、療育手帳の取得に至る。その間3か月の費用は法人負担。

7/9 更生相談所にて療育手帳判定、市役所にて障害程度区分の聞き取り調査実施  
7/26 生活保護支給決定  
8/9付け 療育手帳 判定B1  
8/9 支給決定 区分3

**長所の発見**  
障がい重い方のお世話が大好きという長所を見出し、ピアカウンセリングを中心としたケアプランにつながる。

**キーパーソン**  
日中活動・生活のサービス管理責任者  
日中活動先のサービス管理責任者(男性、勤続6年)、生活の場のサービス管理責任者(女性、勤続7年)を担当職員とし、関係づくりや再出発への動機付けを兼ねて面会を行った。日中担当者の名前はすぐに覚え、キーパーソンとして設定。キーパーソンを早期に明確化したことにより支援がスムーズに行えた。出身地への調査も一緒に出向き、手続きも一緒に行った。

# アセスメント表

氏名	Bさん				男・女	男・ <input checked="" type="radio"/> 女	障害 基礎年金	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1級・2級・申請中
療育手帳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	等級	番号		精神手帳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	等級	番号	
身体手帳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	等級	番号		IQ相当値	41	障害程度区分	無	
家系図	<p>死亡 <input checked="" type="checkbox"/> 死亡 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>兄 兄 姉 姉 姉 妹</p> <p>本人 夫</p>				住宅	なし。公園でホームレス生活。			
	10年以上前から家族との交流なし。居場所も分らず。				経済状況				
家庭状況	実父は本人が17歳時、実母は49歳時に死亡。22歳時に結婚するが、35歳の頃、本人の飲酒が原因で離婚。長女は離婚時に夫が引き取り、以後交流なし。兄2人、姉3人、妹1人いるが、10年前に会ったきりであり、以後交流なし。40代になり、故郷にもどるが、兄との関係悪く、自宅を飛び出し、知人宅、公園での寝泊りなどの生活を送る。家族一同、本人が今まで行ってきた犯罪等で、迷惑を受けており、拒否的。もう故郷には帰ってきてほしくないとおもわれている。療育手帳申請時の書類提出でさえ、やっと協力をしていただけた状況であった。								
犯罪面									
罪名	器物破損	刑名刑期	懲役1年6か月	刑期	年×月～年×月				
受け入れ日	2007年5月	入所度数	4人	再犯期間	1か月28日				
犯罪の概要及び動機・原因	暖を取るためにゴミに放火。飲酒時にいらいらして車庫に放火。 <span style="color: blue; font-weight: bold;">point 1</span>								
犯罪性の特徴	楽天的で、その時々々の刺激によって場当たりに行動する。被害感を抱きやすく、困難にぶつかると、すぐにやけになって短絡的な行動に及ぶ。								
非行・犯行歴	20代～飲酒して放置バイクを無免許で乗り回し、罰金刑。47歳～拾った他人の通帳からお金を引き出そうとして執行猶予、公園で拾った通帳で同様の行為をして受刑。50歳～酒代欲しさに他人の財布を盗む。								
中毒	中毒の有無 <input checked="" type="radio"/> 有【種類：アルコール依存】・ <input checked="" type="radio"/> 無								
反社会的集団との関係	反社会的集団との関係 <input checked="" type="radio"/> 有・ <input checked="" type="radio"/> 無								

# 支援の流れ









## 導入・アセスメント期

期間:2007年5月～8月

## 個別支援計画の作成・実施期

## 現在

まち郊外の刺激の少ない環境で、状態の把握と、基礎的な生活習慣の確立を行う。

	事業所	職員配置	活動内容
 日中活動	 <b>生活介護</b> (長崎県雲仙市) 定員20名 職員6名	 :  Bさん 担当職員 (男性、勤続6年)	リサイクル活動 和太鼓活動
 生活の場	 <b>ケアホーム</b> (長崎県雲仙市) 定員5名(女性のみ) 職員1名(ケア職員付き) まち郊外の丘陵	 :  Bさん 担当職員 (女性、勤続7年)	外出を制限。日課を守れるようになったら 外出をすると約束をする。

### マンツーマンによる支援

就労を希望されていたため、職業能力、他の利用者との人間関係等の把握を目的に、人員が手厚く、メニューの幅がある生活介護を日中活動に決定した。マンツーマンでの支援を実施。事業所を出た地域での活動には参加せず、事業所周辺での活動に限定した。

#### ねらい 留意点

・行動特性、基本能力、人間関係の把握。

- 日中** リサイクル活動 = 自分の仕事を持つことで自覚を促す。
- 生活** 同性の仲間4名との生活の中で生活習慣の確立を目指す。

### 静かな環境での受け入れ

有期限で生活訓練を行う「訓練」に特化したケアホームで受け入れた。同事業所はまち郊外の丘陵に位置し周囲に人家も少ない静かな環境である。罪種も踏まえ、一旦同事業所で受け入れ、状態把握と基礎的な生活訓練を行った後、段階を踏んで生活の場を移動していくこととした。

この間の支援は、キーパーソンとなるサービス管理責任者を中心とし、本人との信頼関係の構築を目指した。

休日は刺激を避けるため、外出を制限しホームやその周辺で過ごすこととした。再犯防止のために、週に1回の持ち物チェックや日中活動先への付き添い送迎を行った。

#### 本人の様子

当初は近辺の人家を何うような目つきがあったが、次第にそのような様子は見られなくなった。ホームの食品を自室へ持ち込むことはあったが、素直に注意を聞き入れることもできていた。

もともと人懐っこい性格であり、それまで親身になって話を聞く相手もいなかったという点もあり、職員に対しての抵抗感はなく、キーパーソンだけでなく様々な職員との良好な関係も出来やすかった。

#### 職員の思い

出所されて初めて、ケアホームの自分の部屋に入った時の本人の笑顔がとても印象的であった。「住むところや食事の心配をしないでいい」という言葉もあり、今まで福祉の手立てを受けることができなかったことを残念に感じた。当初は罪を犯した障がい者を受け入れるということで、今まで行ってきた他の障がい者と違った支援が必要ではないかと不安だったが、本人との関係性がとれてくる中でそのような不安は消えていった。他の利用者と同様、少しずつ信頼関係を築き、本人の思いや望みを受け止め、本人の願いを叶えていく支援が必要であると感じた。







導入・アセスメント期

個別支援計画の作成・実施期

現在

期間:2007年9月～2008年3月

生活の場を障がい重い方が生活されているケアホームに移動。ピアカウンセリングを軸とした支援を行う。

	事業所	職員配置	活動内容
 日中活動	 <b>生活介護</b> (雲仙市) 定員20名 職員6名	 Bさん 担当職員 (男性、勤続6年)	しいたけの栽培、摘み取り 乗馬、和太鼓活動 仲間と共同で行う作業を組み入れることで、他の利用者との協調性を養う。
 生活の場	 <b>ケアホーム</b> (雲仙市) 定員7名(男女混合・重度) 職員2名(ケア職員付き) まち郊外の丘陵	 Bさん 年齢性別共に 様々な職員が加わる	平日にマンツーマンで外出支援。地域行事への参加も行う。

## 個別支援計画







支援の全体目標	①健康で、安定した生活をおくる ②犯罪を繰り返さない環境作り			
ニーズ (解決すべき課題)	支援目標	サービス内容	頻度・時間	目標達成時期
糖尿病 右耳が聞こえづらい 眠りが浅い 高血圧など	健康状態の把握 精神面の把握 適度な活動量の確保	定期的な病院受診 日頃の健康状態の把握・観察 日中活動との密な連携 医務の指導のもと、ビデオなどを見て、病気の怖さを知る機会を作る	随時	2008年10月 病気については、長期的な支援が必要と思われる
円滑な人間関係の構築	ピアカウンセリング 本人の不満、不安を聞きだせる環境づくり・人間関係づくり	言葉使いへのアドバイス キーパーソンの設定 (本人が悩みや思いを伝えやすい職員) 障がい重い方との関わりを通して、豊かな人間関係の構築を図る (過去の経験を生かした、お母さんの役割)	毎日	2010年4月
情緒の安定	落ち着いた生活を送るための、環境整備	レターカウンセリングの実施 生活状況の把握 過ごしやすい生活環境の設定 気分転換を図るために定期的に外出を計画する	毎日	2009年4月
罪の意識を感じていない	自分の問題性の把握	カウンセリング 放火、窃盗など犯してきた罪の重大さを学習する機会を作る 定期的に意識づけをする機会を設ける	随時	2009年4月
行動特性・問題行動の把握	環境が変わったことで、新たな行動特性などがでていないかの把握	日頃の生活状況の把握 日中・生活とのケース会議の実施	毎日 月1回	2008年10月

(2008年4月1日作成)

### 職員の思い

日中の活動場所やホームでの生活にも慣れてきたこともあり、とても穏やかな表情をするようになってきた。悩みごとや日々の何気ない話をする事ができる仲間や職員がいることによって、人はこうも変わるものなのかと実感させられた。改めて他の障がい者と変わらない支援の対象者と感じさせられた。

日中・生活共に、まち郊外からまち中へ活動範囲を広げていく。

	事業所	職員配置	活動内容
 日中活動	 <b>生活介護</b> (雲仙市) 定員20名 職員6名	 通常の職員配置	弁当配達 パン販売 地域サークル活動への参加
 生活の場	 <b>ケアホーム</b> (雲仙市) 定員5名(男女混合) 職員1名(ケア職員付き) まち郊外の丘陵	 通常の職員配置	

### 事業所外への弁当配達により自信をつける

事業所外での弁当配達を開始した。

配達先としては、一般の会社、高齢者グループホーム、独居老人宅、高校であった。当初は配達先の人にも挨拶やお辞儀等のマナーがまったくできていなかったが、練習しながら日々の配達業務にあたり、次第に明るく挨拶もできるようになっていった。独居老人宅では安否の確認も行うようになり、次第に配達先の人からも、「ありがとう」と声掛けされるようになり、本人にとって、誰かのお役にたっていることを実感できるようになってきたと思われる。

配達業務を行うようになり、事業所からの工賃も増額してきた。自身の活動が評価され、頂く工賃も増額してきたことを実感することによって自分に自信がもてるようになり、今までにはなかった自分の居場所を見つけることができたように思われる。

### 生活の場の移行を目指す

まち郊外からまち中へ生活圏域を広げていくプランに沿って、まち中のケアホームでの実習を計画した。心的動揺からか、日頃見られない行動がでてきた。聞き取りを行うと、ケアホームの近くに飲み屋さんもあり、抑えていた悪い癖が出そうになり気持ちが揺れたとの弁。まだ刺激の少ない所での生活を希望される。

## 本人の夢

本人と将来について話をする中で、「同じ日中活動先の仲間に好きな人ができた。その人と話をするのが楽しい。将来一緒に暮らすことができたらと思う」という話が聞かれた。現在のまち郊外の丘陵のケアホームでの生活を希望される。

### 職員の思い

誰かに感謝されたり、お役に立つことを実感することが、こうも人を成長させるものかと驚かされた。本人の心が成長し、社会で適応していく為の力を養われていくところを実感した。今までの生活の中で、結婚し、子供にも恵まれて幸せな時期もあったと思われるが、幸せな時期のことを忘れ、長いホームレスでの生活は大変だったことと思われる。ここにきて、本人が心を許せる仲間や職員が増えていったことが、生活の安定に繋がっていったと思われる。

## 支援のまとめ

- 1 再犯につながるアルコール禁止・火気管理という生活環境づくりを配慮したことが大きかった。
- 2 母親の経験をいかした、重度の障がい者とのピアカウンセリングが精神面での安定につながった。
- 3 お弁当配達で地域の人に言われた「ありがとう」という言葉が本人の自信になっていった。